

奈良女子大学
地域貢献事業実施報告書

「知る・学ぶ・伝えるequality」

令和元年度

令和元年度地域貢献事業報告
知る・学ぶ・伝える equality

1. 目的（概要）

男女共同参画の根幹であるequality（平等）の実現を目指し、「多様な個性の尊重」についての様々な話題を連続講座の中で提供する。初めて知ったこと（知る）、関連する問題や背景などについて学んだこと（学ぶ）、一人一人が大切にされる社会を作るために毎日の生活の中で自分ができること（伝える）を参加者に持ち帰って頂くことを目的とする。

2. 実施担当者・連携組織等

(1) 奈良女子大学

主催：男女共同参画推進機構、ダイバーシティ推進センター

共催：社会連携センター、佐保会（講座2回目のみ）

(2) 連携組織等

後援：奈良県（健康福祉部こども・女性局女性活躍推進課）、
奈良市（市民部男女共同参画課）

3. 活動内容

本学は、基本理念の第一に「男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ—」と定め、平成17年に奈良女子大学男女共同参画推進室を設置した。（*平成24年12月に男女共同参画推進機構に改編。）そして基本理念と男女共同参画社会の実現に向け、国が定める基本計画等に基づき、教育・研究・運営等のあらゆる場面で環境整備を進めてきた。第2期中期目標・中期計画（平成22年4月～平成28年3月）には、学内外における男女共同参画の推進が定められ、この目標・計画達成に向けた取り組みの一環として、平成22年度に本事業を開始した。

この事業は、男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」と「人間の平等(equality)」を身近な問題として捉え学ぶことを目的として、男女共同参画を含む人権に関する様々な話題を講座等を通して提供するものである。平成22年度は、ビデオ教材を用いて、日本国憲法に「男女平等」が書かれた経緯を知ることから始め、家庭における性別役割分業やアジア、ヨーロッパ、アメリカの女性を取り巻く環境について学んだ。平成23年度は、「幸せに生きるためのヒント」と題した5講座を開催。平成24年度は、「自分を好きになること」（自尊感情の育成）をテーマとした4回の講座を実施。平成25年度は「心を元気にすること」をテーマに、①寂しさ・悲しみ、②不安・恐れ、③怒りの感情の受け止め方・対処の仕方に関する3回連続講座を開催。平成26年度は、「あるがままの自分を生きる」ことについての2講座を開講。27年度は社会連携センター単独主催で「五感と対話」をテーマとした2回の講座を実施した。平成28年度及び平成29年度は「性的マイノリティー」

をテーマとして年2回の講座を開講した。平成30年度は「発達障害」をテーマに2回の講座を開講した。

今年度（令和元年度）は「男性の働き方、女性の働き方」をテーマに2回の講座を開講した。

広報活動として、連続講座のチラシを作成し、奈良県内の公民館、奈良市内の幼稚園・保育園・こども園、関西圏内の大学及び自治体の男女共同参画推進部門に郵送した。また、子育てフリーペーパーや新聞社に掲載依頼した。更に、本学HPイベント情報へ掲載した。

講演開催時の無料託児も行っており、多くの方に参加機会を提供するため、今後も受け皿を用意することがのぞましい。

以下各講座の内容を報告する。

第1回

【講座名】 “知る・学ぶ・伝える equality” 連続講座 第1回
『わたし』を活かせる社会の実現をめざして
～すべては思い込みを捨てるところから始まる～

【日時】 2019年11月14日 15:00～16:30

【場所】 奈良女子大学 理学系A棟1階 理学部会議室

【講師名】 中根弓佳氏（サイボウズ株式会社 執行役員
人事本部長兼法務統制本部長）

【参加人数】 24名

【講座概要】

日本では、女性はライフイベントにより、社会復帰が難しく、働きたくとも働けない現状がある。ところが日本社会は労働人口が減少する一方、求人は逆に増大しており、人手不足が問題となっている。人手不足を解消するためには、働き手を増やす、ビジネスモデルを変える、業務効率をあげることが考えられ、女性に限らず多様な個性を活かすような働き方改革が必要とされる。それを実現するためには、私たちが持っているさまざまな思い込みを捨てねばならない。働く時間（裁量労働、残業なしや短時間勤務など）、働く場所（オフィス以外での就業）の選択、そしてそれを越えて、働かない時間の思い込みを捨てる（副業も可能）、またツールを用いてコミュニケーションや情報共有のしくみを改革する。これらの改革により、女性を含め多様な働き方を希望する人々の社会での活躍が可能となる。働く人一人一人は個性が異なるのであるから、100人い



れば 100 通りの働き方や制度があってもよい、公平性よりも個性を重んじて一人一人の幸福を追求することが大切であることを、ご自身のご経験から、またサイボウズ株式会社の取り組みを基に熱く語られた。会場には一般、大学教職員、学生が参加し、活発な質疑応答があって、今後の働き方を考えるきっかけとなった。

【アンケート調査】

回答人数 15 人 回答率 63%

Q1 所属 教員 20% 職員 40% 大学院生 20% 学部生 6.7% 一般 13.3%

Q2 情報源 チラシ 26.3% ポスター 5.3% 本学 HP 31.5%

本学のメールマガジン 5.3% 知人・友人からの紹介 5.3%

講師からの紹介 0% その他 26.3%

Q3 イベント参加回数

初めて 40% 2~3回 26.7% 4~5回 13.3% 6回以上 13.3%

未記入 6.7%

アンケートまとめ（自由記述より）

- ・ IT 業界や IT については苦手で、少し専門的な話が多かったですが、ママに対するインターンや出戻り社員の話は、もっと全ての業界に広がっていけば良いと思いました。
- ・ 私自身が本講座の「思い込み」を捨てられていないので、異なる考え方に触れられました。講師の方がとてもお話し上手で非常に興味深くおきかせ頂きました。
- ・ 「思い込みを捨てる」ことが大切で、そのような社会になってほしいと思うが、社会全体が同じようにそう思って動いていくことが難しいと思った。お互いの選択を尊重して、お互いを信頼できる社会（集団）にするにはどうしたらよいのか、と思った。
- ・ とても興味深い内容で、あっという間に時間が過ぎました。ありがとうございました。
- ・ 将来のパートナーにすすめようと思いました。
- ・ 大変貴重なお話、ありがとうございました。サイボウズという会社が成功していることがよく分かりました。
- ・ 大変参考になりました。なにごとも自分の意識次第であることを再認識できました。
- ・ 人事担当として、他業種がどのように職場環境を変えていったのか、非常に勉強になりました。そんな考え方や、やり方があるのかと驚きを感じるがありました。
- ・ 会社のルールを変えていくフットワークの軽さにカルチャーショックでした。
- ・ これから就職先を決定していく中で、自分の働き方について、より深く考えていくための、良い判断材料を得ることが出来ました。複業についてのお話は、特に興味深かったです。
- ・ 思いこみの排除についての方法についてお聞きでき、本当に参考になりました。
- ・ たいへんおもしろかった。

第2回

【講座名】 “知る・学ぶ・伝える equality” 連続講座 第2回

「パパの育児が世界を救う!!

～男性の育児の今昔～

【日時】 2020年1月16日 15:00～17:00

【場所】 佐保会館（奈良女子大学同窓会館）

【講師名】 小崎恭弘氏（大阪教育大学教育学部准教授・

NPO 法人ファザーリング・ジャパン顧問）

【参加人数】 33名

【講座概要】

日本政府は「女性活躍の推進」を政策の一つに上げ、2015年女性活躍推進法が施行された。それ以後年々女性の就業率は伸びてきているものの、非正規雇用の比率が高く、いまだ女性の社会での活躍は果せていない。日本の男性の育児・家事時間は他国に比べて著しく低く、女性の育児休暇後の社会復帰が困難であることと共に考えると、女性の活躍推進と男性の育児・家事への進出は表裏一体である。「イクメン」という言葉が流行し、男性が育児に関わることが多くなってはいるものの、男性の家庭進出はなかなか浸透してきていない。そこには、「男性は仕事、女性は家庭」という社会の根強い意識がある。男性は長時間労働を強いられ疲れている。女性は家事、育児が過度の負担となり疲れている。そんな中で子供も追い詰められている。いずれも幸せではない。男性が家庭に進出することは、女性の社会での活躍を推進し、父親、母親、子供、そして企業や社会も幸せにできるはずである。また、男性が育児に参画することは、子供の認知発達が促進され、社会適応に優れ、情緒が豊かになるという面もある。男性の家庭進出を促すために、社会の意識改革と制度設定が必要である。男性の家庭進出は個人、家庭、職場、社会の変革につながるにちがいない。小崎氏はユーモアを交え、分かりやすい言葉で語られた。会場には子育て中の男性の参加もあり、活発な意見交換が行われ、有意義であった。



【アンケート調査】

回答人数 23人 回答率 70%

Q1 所属 教員 17.4% 職員 34.8% 大学院生 0% 学部生 4.3% 一般 39.2%
高校生以下 4.3%

Q2 情報源 チラシ 40% ポスター 0% 本学 HP 8%

本学メールマガジン 4% 知人・友人からの紹介 20%

講師からの紹介 0% その他 28%

Q3 イベント参加回数

初めて 30.4% 2~3回 34.8% 4~5回 13% 6回以上 17.4%

未記入 4.4%

アンケートまとめ（自由記述より）

- ・この手の話題についてはよく目にしていましたが、別のところに目を向けられるお話が聞けてよかった。男性の育児が求められるのは父親が育児しないことによって困っている母親がいるから問題になっているのである。今後社会に求められているのは柔軟性のある社会であると考えます。
- ・身近な話題で講師の方のお話も上手で、とても楽しかったです。
- ・イクメンという言葉はあまり好きではないのですが、軽妙な話し方で社会のあり方から個人の幸せまで興味深く聞かせていただきました。考えさせられることが多い内容でした。ありがとうございました。*政策による誘導が上手くいくかどうかは（女性活躍の出発点が産業界の労働力確保にあることなどを考えると）かなり疑問ですが、個人としてできることをやりたいようにやろうと思います。
- ・とてもおもしろかったです。
父が子育てで一点突破できるか？・労働力・休暇取得・多様性・システムの問題←労働者の問題ではない？ 企業、行政に具体的な適切な解決手段があるか？
- ・わかりやすい話でたのしかったです。
- ・講師の方の話を大変楽しくきくことができました。私は女性ですが、男性にぜひ聞いてもらいたい内容でした。このような話を足をはこび聞いてみようと思う男性は自分が少しでも変わるかな、変わりたいという意識や興味があるかと思います。意識の低い男性がどうしたらこのような話を聞いてくれるか、聞く環境をつくるかが今後の課題ではないかと感じました。
- ・興味深いお話を楽しい話題を織り交ぜながらお聞かせいただき、有意義な時間でした。
- ・自分自身も子育て中なので、参考になる事項、話題がたくさんあり良かったです。
- ・面白かったです。ただ配布されたプリントにそって話をするだけでなく、いろいろな経験談を聞いてよかったです。
- ・前回と同様に、今回の方も非常に分かり易く楽しい話をして頂きました。
- ・男性の育児がテーマでしたが、質疑応答では色々な話題が上がり、とても興味深かったです。
- ・もっと著書にそったお話が多いかと思っていましたが、もっと社会全体のお話だったので、とても男性的な視点でも育児を見ていらっしやるんだなと思いました。ありがとうございました。

- ・母親支援の仕事をしています。優先は母親ということでもまず母親支援をしていますが、もちろん父親も支援が必要であり、私自身は「長時間労働」が一番の問題とっておりましたので、父親支援の方からも同意見を聞いてうれしかったです。ファザーリングジャパンがどんどん知られていくことで、母親支援にもつながっていくので共にがんばりましょう。パパスクールが 19-21 開催（しかもその後飲み）が気になりました・・・小さい子を持つ母は一分一秒でも早く帰ってきてほしいです！！笑大人の目が2つになるだけで負担が全然ちがう
- ・男性の育児にスポットをあてながらも社会全体の人口事情等まんべんなく学べて勉強になりました。
- ・楽しく聴かせていただきました。ありがとうございました。子育ては終わりましたが、その間はとても充実した生活だったと思っています。きびしい世の中になって来ていて、今の若い人達はたいへんと思いますが楽しい子育てをしてもらいたいと思います。
- ・働き方（日本の長時間労働）をどうにかしてほしい。男性ひとりひとは子育てに関する意識はここ数年でかなり変わってきているが、時間的、体力的にムリがあるのが現状。いつまでこのジレンマが続くのか。女性議員が増えたり、行政が目覚ますべきと思いました。楽しく、分かりやすく、説明下さり大変良かったです。
- ・お話の内容がわかり易く今の子育て事情や社会の変化がわかりました。イクメンという言葉があまり好感を持てるものではなかったのですが、育児や家事をせざるをえないパパの実情もあるのだと少しイメージが変わりました。ありがとうございました。
- ・女性活躍というのが育児はどこに行くのか。男性が参加しても子どもが自分の家になくして他の場所で育つという現実があり、その子供の育ちに親が責任をとれるのか。保育施設の質の向上が求められると思う。（専業主婦の子育てのバックアップをする社会や男性が育ってほしい）この時間はいろいろな問題をわかりやすく軟らかい頭で考えられる時間でした。ありがとうございました。
- ・男性の育児について、子供の多様性を挙げておられるのが良かったです。夫の質問にとっても的確に答えて下さり、多様な選択肢、考え方を示して頂き、勉強になりました。自治体の努力の問題というのも分かりました。
- ・現在、宮崎県の延岡市に住んでいます。「陸の孤島」と呼ばれるほどの場所で子どくさんの家庭も多く比較的イクメンと呼ばれる父親は多いようですが、それは個人の父親たちががんばっているだけで、行政のサポートはまだまだで「育児休暇」をとれている方々は少ないです。いつか延岡市にも講演をお願いします。

4. 成果と見通し

今年度は「男性の働き方、女性の働き方」をテーマにして 2 回の公開講座を開催した。日本政府は「女性活躍の推進」を政策の一つの柱に掲げ、2015 年には女性活躍推進法が施行された。それ以後年々女性の就業率は伸びてきてはいるが、その内訳を見ると非正規雇用の比率が高いのが現状である。これまで女性が輝ける社会を実現するために、さまざまなポジティブアクションが試みられてきたが、大きな成果をあげてこなかった理由としては、「男性は仕事、女性は家事・育児」という根強い意識がある。これまでの働く女性に対する支援だけでは、女性の社会進出には不十分であり、社会のこれまでの意識を変える必要がある。第 1 回目の講座では思い込みを捨て、これまでの社会の働き方に対する意識を変えて、女性を含めたさまざまな人々、企業のニーズにこたえられる働き方改革について、第 2 回目の講座では、男性の家事・育児への進出が女性の社会進出と表裏一体であり、男性の家庭進出が父親、母親、子供の幸せを実現し、社会の変革にも繋がることを、それぞれ語られた。もちろん、社会の意識の変革は一朝一夕に実現するものでなく、そこにはいくつも課題がある。しかし、今回参加された方々のアンケート結果を見ると、みなさま 2 回の講座で語られた内容に対して肯定的な反応を示されており、公開講座で「知り」「学んで」さらに周囲に「伝えて」くれるきっかけになったと考えている。今回は小さな波であろうとも、回数を重ねていくことにより、社会を変革する大きな波となるにちがいない。今後もこのような公開講座を開催していくつもりである。